

## 式 辞

校門の桜の蕾も膨らみはじめ、新たな命を育む春の息吹を感じる今日の佳き日に、大阪府立桃谷高等学校 多部制単位制Ⅲ部 後期卒業式を挙げるにあたり、公私ご多用の中、大阪府教育委員会芝田主任指導主事並びにご来賓のご臨席を賜りました上、多数の保護者やご家族の皆様のご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりまして心からの慶びであります。高いところからではございますが、厚く御礼を申し上げます。

三十六名の卒業生の皆さん、そして、保護者やご家族の皆様方、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆さんは様々な動機や学習歴をもって、本校に入学しました。年齢や入学までの経験、在籍期間もさまざまです。皆さんが入学したときの思いを大切に、今日、卒業の日を迎えることができた、その並々ならぬ努力と熱意に深く敬意を表します。

先日、皆さんが書いた卒業文集を読ませていただきました。

桃谷高校に入学した理由、遠足や修学旅行など学校生活を楽しんだ事、勉強に苦勞した事、また、学校を辞めようかと思悩んだ事などが、一人ひとりが自分の言葉で、決して上手とは言えない文字もありますが、一生懸命に丁寧に書き綴られていました。その一文字、一文字から、目標であった卒業にたどり着いた皆さんの想いが、心の声が聞こえるようでした。

我々、桃谷高校Ⅲ部の教職員は、皆さんの気持ちに伝えることが、寄り添うことができたでしょうか。

私は皆さんの想いを受け止め、寄り添うことができたと確信しています。

なぜなら、文集の中には、先生方への多くの感謝の言葉があふれているおり、また、今日皆さんと一緒に、卒業をお祝いすることができたからです。

先ほど、皆さん一人ひとりに授与した卒業証書には、多くのことが詰め込まれています。

少し、開いてみて下さい。

最初に「卒業証書」と書かれています。これは、皆さんがこの桃谷高校を卒業したということの証しです。

次に、それぞれの名前が書かれています。この卒業証書は、あなただけの世界中でたった一つのものだということです。

皆さんは、その名前を桃谷高校で先生方や友人たちにこれまで数限りなく呼ばれてきたことでしょう。

卒業証書授与の時、担任の先生が皆さんの名前をしっかりと呼びましたが、高校生としての名前を呼ぶのは今日が最後です。もう、高校生として皆さんを呼ぶことはないのです。

続いて、あなたの誕生日が書かれています。ここに書かれている日に、あなたは生まれたのです。そして今日まで、嬉しいことや楽しいこと、悲しいことや苦しいこと、本当に色んなことがあったと思います。

しかし、少し遠回りをした人もいますが、皆さん一人ひとりが色んな困難を乗り越え、無事高校を卒業することができたのです。

振り返ってみると、これまで色んな人に支えられてきたのではないのでしょうか？

病気をした時に心配して、看病してくれた人。

朝、起きられない時に、大きな声で起こしてくれた人。

悩んでいる時に、しっかりとそして優しく話を聞いてくれた人。

間違った事をした時に、厳しく叱ってくれた人。

学校に行くことができなかつた時に、そっと寄り添い見守ってくれた人。

学校に行くために、仕事をサポートしてくれた人。

学校に行くために、洗濯や掃除などの家事を手伝ってくれた人。

家族や友人、先生や職場の同僚など多くの人たちが皆さんを見守り、支えてくれていたのです。

では、皆さんは、支えてくれた人たちにどれだけのことを返すことができたでしょうか。

少し古い話になりますが、1961年に行われた第35代アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディーの国民に向けた就任演説の中に、次のような有名な言葉があります。

「祖国アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが自身で祖国アメリカのために何ができるかを考えてください。」

繰り返します。

「祖国アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが自身で祖国アメリカのために何ができるかを考えてください。」

皆さん、「祖国アメリカ」の部分まで支えてくれた人に置き換えてみましょう。

「家族」に置き換えると「家族が何をしてくれるかではなく、自分が家族に何ができるかを考えよう。」

「友達」に置き換えると「友達が何をしてくれるかではなく、自分が友達に何ができるかを考えよう。」

「会社」に置き換えると「会社が何をしてくれるかではなく、自分が会社に何ができるかを考えよう。」

色々と文句を言うだけで、何にもかも他人のせいにするばかりで、当てにするのではなく、自分から主体的に自分の道を切り拓いていこうとすることです。

これから厳しい社会に飛び出す皆さんには、素晴らしい出来事はもちろんのこと、色々な困難も待っていることでしょう。困難な壁に突き当たることはよくあることです。

そんな時には、自分が誰かのために、何ができるのかを考えてください。

大切なことは「できない理由」を探すのではなく、「できる理由」を考えることです。

そして、失敗を怖れず、何事にも果敢にチャレンジしてください。

要するに「やったことがないことをやってみる」ということです。

「やったことがないことをやってみる」だけで小さな自信が湧いてきます。

でも「やったところがない」をすると失敗してしまいます。

失敗から学ぶことはとても大切で、失敗するたびに人は成長していくのです。失敗したことを恥ずかしくがらず、恐れず、自信に繋げていきましょう。

そして、誰かに支えてもらうのではなく、今度は自分が誰かを支えていけるようになって下さい。

苦しい時は、今そこにある色々と詰まった卒業証書を見てください。そして、卒業という夢を叶えた今日の喜びと、夢を叶えるために頑張れることのできた自分を誇りに思う今の気持ちを思い出してください。

その誇りを胸に、これから始まる人生を、素晴らしいものにするために、新たな夢や志しに向かって大きく、大きく羽ばたいてください。

皆さんの今後のご活躍と、ご健康を心より祈念して式辞といたします。

平成二十九年三月七日

大阪府立桃谷高等学校  
多部制単位制 III部  
准校長 酒井 智